

南無阿弥陀仏は  
私のいのち

平成 24 年  
2 月号

NO.  
409

え  
し  
お

2

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03 3875 3351 FAX 03 3875 6796  
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>  
発行人 岸本 秀一  
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



## 「祭りを通して」

「勝部の火祭り」、滋賀県守山市で毎年一月に行われている祭りである。約八百年の歴史があり、町の若衆がふんどし姿で、威勢のいい声を張り上げながら十二本の大松明を神社に奉納し、一斉に燃やすのである。

その祭りに参加して十五年になるが、なぜその祭りに参加しているのか疑問になった。正直、自分から進んで祭りに参加しているわけでもない。むしろあまり好きではない。さらに、その祭りには一年の無病息災が願われていることも、インターネットで、初めて知った程度である。

東京からこの祭りのために帰省するのはなぜなのか、自分でも不思議に感じた。祭りに参加し、昔から知っている人達と体と体で激しくぶつかりあい、共に酒を飲んで騒いだ。決して仲良しではない。年も違うし、住んでいる環境も違えば考え方も様々である。しかしそういう人達との関係の中に自分がいるのだと感じた。

私は今まで当たり前のようにして祭りをこなしてきたが、今回参加したことを縁として、あらためて仲間に出会ったのではないかと思う。そこには祭りの意義を超えた人との出遇いがあった。

## 群生海

# 「歌は楽しい」



横山 慎吾さん

今回は西徳寺合唱団「エコー」の指揮をされている横山慎吾さんにお話を伺います。

### 歌をはじめたきっかけ

元々音楽が好きで、合唱を始めたのは中学の時に地元の男声合唱団に所属したことがきっかけですね。本格的に音楽を勉強するきっかけになったのは、高校受験のときに音楽の先生の出身校を紹介してもらったことです。部活もオーケストラ部に入り、朝練習もしていましたね。

音大に入ってから発声の仕組みを教わって、それが今でも活かされています。

### 初めて指揮をされたときについて

私は全く指揮の勉強をしていなかったんです。そんなとき、ある合唱団を前任の方から引き継いだのですが、実は発表までほとんど時間が無かったです。発声練習をどうしたらいいのか全然わからないし、

書物を読みあさったり経験者に聞いたりと手探りでした。危機感があったので自分でもどうしたらいいのかよく考えましたね。

しかし、もしも期間が長かったら安心しきって、きちんと取り組まなかったのかもしれない。前任の方は僕の性格を見通して指導してくれたのかもしれない。

### ただ、楽しく歌って欲しい

団員の方への願いはただ、楽しく歌って欲しいです。歌は楽しいことも苦しいこともあるけれど、私にはいかに苦しいことを楽しく見せていくかという役目があります。

しかし、楽しく歌うためにはどうしたらいいのか、人任せにしないでそれぞれに考えて欲しいですね。出来なくて当たり前なんです。しかし、出来ないからこそ他の団員や指揮者と助け合っていくんです。出来ないことを通じて、歌うことを楽しみに参加して欲しいと思います。

(聞き手 高橋 淳)

## なんで？

### 「葬儀」②

「家族にもしもの事があつたら、どうしたらよいのですか?」、経験のないご家庭なら誰もが抱える不安ではないでしょうか。

『西徳寺墓地契約書』第一条に「西徳寺の檀信徒は、法要その他一切の儀式を西徳寺に依頼する」とありますように、仏事はすべてお勤めいたします。もしお身内が亡くなられた場合、先ず西徳寺にご連絡をいただき、葬儀の日程をご相談させていただきます。その際、ご門徒のほとんどは地元(住居付近の施設等)で営まれますが、**近隣を問わず伺い、読経いたします。**

西徳寺での葬儀をご希望の方は、**遠方であっても葬儀社を派遣し、葬儀一切についての打ち合わせをさせていただきます。**ご不明な点がございましたら、寺務所までお問い合わせ下さい。

(主任 木村 記)

南無阿弥陀仏となつて、一声一声に夢から覚めよと、呼びかける法蔵菩薩は、阿弥陀仏となつて、あらゆる人を救いながら、すでに十劫も歩み続けていました（『仏説無量寿経』）。そのことに気付かれた釈尊は、名を通して人間の闇を照らす光を、広く深く感得されました。それで、阿弥陀仏を「無量光仏・無辺光仏・無碍光仏・無对光仏・焰王光仏・清浄光仏・歓喜光仏・智慧光仏・不断光仏・難思光仏・無称光仏・超日月光仏」と号す（『仏説無量寿経』）と、十二光仏の名をあげられます。だから、親鸞聖人は、「光如来ともうすは、阿弥陀仏なり」（『尊号真像銘文』）といわれて、如来の光ではなく、光が如来であり、阿弥陀仏であるといわれます。

光そのものは、肉眼では見えませんが、虹のように太陽の光が空気中の水滴によって屈折、反射されると七色（民族によつて違う）に見えます。お名号から光を放っている「光明本尊」は、お名号が光となつて、われわれの闇を角度を変えて限りなく照らし、お念仏に帰らせるはたらきをあらわすのでしよう。それで、「あまねく、無量・無辺光、無碍・無对・光炎王、清浄・歓喜・智慧光、不断・難思・無称光、超日月光を放つて、塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る」といわれるのです。



『正信偈』は、七字に収めますから、光の字が略されているところもあります。『仏説無量寿経』の順番の通りに十二光を述べられて、平等に塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る」といわれるのです。

松井憲一  
**正信偈の話⑥**  
**「普放無量無辺光、無碍無对光炎王、清浄 歓喜智慧光、不断難思無称光、超日月光 照塵刹。一切 群生 蒙光照。」**  
 （あまねく、無量・無辺光、無碍・無对・光炎王、清浄・歓喜・智慧光、不断・難思・無称光、超日月光を放つて、塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る。）

「智慧の光明はかりなし」とか「有量の諸相」とか「真実明に帰命せよ」とか「有量は世間にあることはみな量りあるによりて有量という。仏法はきわほとりなきによりて無量という」といわれるのです。

光の順に和讃されるだけでなく、時には左訓（本文の左に書かれる注釈）までされて、闇を破る光の尊さを讃えられます。その初めが、無量光です。無量光には「智慧の光明はかりなし」とか「有量の諸相」とか「真実明に帰命せよ」とか「有量は世間にあることはみな量りあるによりて有量という。仏法はきわほとりなきによりて無量という」といわれるのです。

「あまねく、無量・無辺光、無碍・無对・光炎王、清浄・歓喜・智慧光、不断・難思・無称光、超日月光を放つて、塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る」といわれるのです。

「あまねく、無量・無辺光、無碍・無对・光炎王、清浄・歓喜・智慧光、不断・難思・無称光、超日月光を放つて、塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る」といわれるのです。

「あまねく、無量・無辺光、無碍・無对・光炎王、清浄・歓喜・智慧光、不断・難思・無称光、超日月光を放つて、塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る」といわれるのです。

「あまねく、無量・無辺光、無碍・無对・光炎王、清浄・歓喜・智慧光、不断・難思・無称光、超日月光を放つて、塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る」といわれるのです。

# 「山門の言葉」

人は

教えられ

学び

つづけるもの

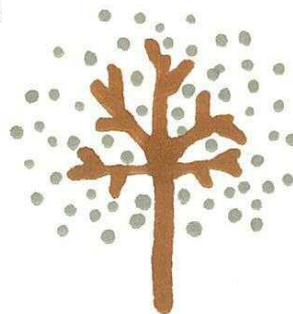
自分の誕生日は誰でも知っているが、その日に生まれた実感は誰にもないはずだ。ただ知っているのは親に教えられたからである。

当然のことながら、生まれ落ちたその日から親に面倒をかけ、一から十まで生き方を教わってきた。人によって個人差はあるものの、顔の洗い方から箸の持ち方まで躰しっけられてきた。ところが何時の頃からか、人から教えられることに不満を持つようになり、自分の価値観を確かな依りどころとするようになった。



私の価値観は過去の経験によって養われたものである。善悪の分別で心と体に刻みつけてきたことが根柢こんだいとなっている。しかし、自分

の経験値では計り知れないのが生死の世界であり、凡夫の身をいただいているという事実ではないだろうか。



今日は誰も迷っているという自覚がない。欲しい物が決められずに迷い悩むことはあっても、自己を見失い、人生を漂流しているとは夢にも思わないだろう。便利で快適な生活を手中に収めることを生きる目的にしているが、結果的には自分の煩惱に振り回され、他人との比較によって互いに傷つけ合っていることには気付かない。個人的な願望で生きる限り、喜びや悲しみを共有できない孤独感おちいに陥ることになる。

親鸞聖人はこの世を「火宅無常の世界」といわれ、我が身は「罪悪生死の凡夫」であり「出離の縁あることなし」と頷かれた。これは親鸞の個人的な経験で培われた価値観ではなく、法然上人との出遇いによつて聞き取られた本願念仏のよびかけである。もはや自力では全くたすかる術がない自身を深信され、本願によつて自我から解放されていく道を賜われることのできた、親鸞聖人の感動が表されている。

仏の教えによつて自己に目覚め、生き方を学び続けていく。南無阿彌陀仏とは終わりのない聞法生活である。

(主任 木村記)



# 春季永代経法要・ 聖徳太子奉讃会(本山特派布教)ご案内

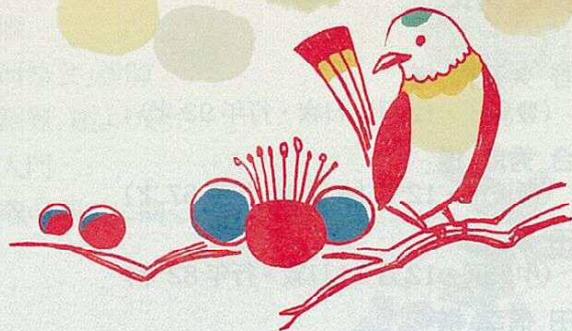
春のお彼岸は、来る3月17日から23日までです。西徳寺では、例年通り22日の午前しょうとくたいしほうざんえに『聖徳太子奉讃会』を、午後しゆんぎえいたいきょうに『春季永代経法要』を勤修致します。

親鸞聖人は聖徳太子を「和国の教主」と受け取られています。この日本に仏教が定着したのは聖徳太子のご功績であると讃嘆さんだんされております。さらに聖徳太子を「父のごとく」「母のごとく」  
とも受け止めておられます。そのため真宗では親鸞聖人に習い、聖徳太子のお仕事を再確認し奉讃たいしごうするため「太子講」が全国各寺院で営まれてきました。

西徳寺でも以前は「太子講」と言っていました。現在は奉讃会として勤めております。

わこく きょうしゆしゅうとくおう  
和国の教主聖徳皇  
こうだいのんとくしや  
広大恩徳謝しがたし  
きみよ  
一心に帰命したてまつり  
ほうざんふたい  
奉讃不退ならしめよ

だいじくせしゅうとくおう  
大慈救世聖徳皇  
父のごとくにおわします  
だいひくせかんぜおん  
大悲救世観世音  
母のごとくにおわします  
こうたいししゅうとくほうざん  
(以上二首、皇太子聖徳奉讃のご和讃)



## 記

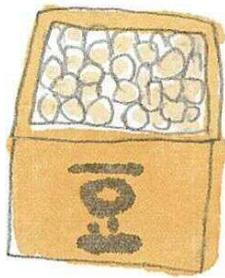
日 時 平成24年3月22日(木)  
午前10時半 聖徳太子奉讃会  
正午から お齋  
午後1時半 春季永代経法要

ほんざんざしむけ 本山差向布教使      みなもとぜんじょう 源善浄師      じょうがんじ 浄願寺住職 (福井県越前市)

※準備の都合上、お齋のお申し込みは3月10日までにハガキでお申し込み下さい。



## 日誌



- |            |                                    |
|------------|------------------------------------|
| 12月10日     | 同行会「正信偈の教え」に聞く<br>法話 蓮井 邦宗         |
| 12月14日     | 婦人会聞法会                             |
| 12月17日     | 定例聞法会<br>評議員会定例役員会<br>混声合唱団「エコー」練習 |
| 12月22日     | 教行信証『信巻』に聞く(第74回)                  |
| 12月27日・28日 | 宗祖忌                                |
| 12月31日     | 歳暮法要                               |
| 1月1日       | 修正会                                |
| 1月7日       | 混声合唱団「エコー」練習                       |
| 1月7日・8日    | 中興忌                                |
| 1月8日       | 婦人会新年会                             |



## えこお志お礼

- |     |          |
|-----|----------|
| 台東区 | 栗林 信恵 様  |
| 文京区 | 井ヶ田 久子 様 |
| 板橋区 | 久保田 宏子 様 |
| 大和市 | 齋藤 祐三 様  |
| 柏市  | 山本 英男 様  |
| 文京区 | 官林 以智子 様 |
| 墨田区 | 神谷 和利 様  |
| 葛飾区 | 札木 良明 様  |
| 北区  | 小山 幹夫 様  |



# 掲示板

平成24年 2月

4日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習  
5日(日) 午後2時 城東ブロック会間法会  
(市川八幡神社)  
8日(水) 午後1時 婦人会間法会  
本山リーフレットに聞く  
「みんなみんな意味がある」  
午後4時 総代会  
10日(金) 午後1時半 教行信証『信巻』に聞く(第76回)  
講師 宗 正元師

18日(土) 午後1時半 定例間法会  
21日(火) 午後7時 仏教青年会座談会  
25日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習  
午後6時 同行会「正信偈」の教えに聞く  
法話 仲井 真裕  
26日(日) 午後2時 城南ブロック会間法会  
(太子堂 レンタルスペース SF)



## 大遠忌ニュース③ 「大遠忌法要」ご講師の紹介

いちらく まこと

**一楽 真師**

石川県生まれ

大谷大学 教授 小松市 宗圓寺住職

本山佛光寺 「第八次間法推進員養成研修会」講師

主要著書 『大無量寿経講義 - 尊者阿難、座より起ち - 』

『親鸞聖人に学ぶ - 真宗入門 - 』

『四十八願概説 - 法蔵菩薩の願いに聞く - 』 他多数

なかい けんりゅう

**中井 賢隆師**

大阪府生まれ

大阪別院 輪番 豊中市 最勝寺住職

本山発行『ともしび』編集委員長

もり せいはん げいか

**森 清範 猯下**

京都府生まれ

清水寺貫主 泰産寺住職

主要著書 『こころの水』

『命こそ仏様 - 人のこころ観音の心 - 』

『清水寺まんだら』 他多数

さんゆうてい えんか

**三遊亭 圓歌 師匠**

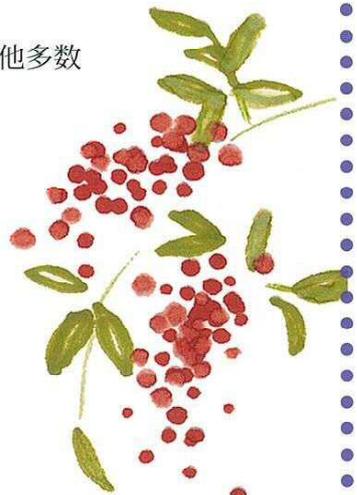
東京都生まれ

社団法人 落語協会 最高顧問

日蓮宗・本法寺で得度 僧名・圓法

勲四等旭日小授賞受賞 文部省芸術祭最優秀賞受賞

浅草芸能大賞受賞



# 平成24年 西徳寺 親鸞聖人750回大遠忌法要 日程表

時間	4月28日(土)	時間	4月29日(日)
10:00	日中法要 舌々正信偈・三首引	10:00	日中法要 仏説阿弥陀経・一首引
11:00	法話 大谷大学・教授 <small>いちらく まこと</small> <b>一楽 真師</b>	11:00	法話 大阪別院・輪番 <small>なかい けんりゅう</small> <b>中井 賢隆 師</b>
12:00	昼食 休憩	12:00	昼食 休憩
12:45	帰敬式	13:00	逮夜法要 行譜正信偈・三首引
13:30	逮夜法要 常行三昧	14:00	特別講演 清水寺貫主 <small>もり せいはん</small> <b>森 清範 猊下</b>
14:30	法話 大阪別院・輪番 <small>なかい けんりゅう</small> <b>中井 賢隆 師</b>	15:00	寄席 落語 <small>さんゆうてい えんか</small> <b>三遊亭 圓歌 師匠</b>
15:30	西徳寺 混声合唱団 『エコー』		
19:00	青年会主催イベント ライブコンサート 出演『ヒナタカコ』	※予定を変更する場合がございます。	

## 編集後記

元日、朝六時から勤まる修正会にはじまり、お正月の三ヶ日は大勢のご門徒さんが参詣されました。昨年にごった東日本大震災も念頭にあるのか、「今年は平穏な一年でありますように」と多くの方が言われました。

親鸞聖人のお言葉に「世のなかあんのん安穏なれ、仏法ひろまれ」とありますが、仏様の大悲心に報いる仏恩報謝のお念仏、それこそが私たちにとって本当に安心できる生活を開くのであると教えてくださっています。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：<http://saitokuji.tobihiro.jp/>